



2020年7月07日

ロイヤル・カリビアン・インターナショナル
日本総代理店 株式会社ミキ・ツーリスト
クルーズカンパニー
cruise-marketing.jp@group-miki.com

公衆衛生の専門家 クルーズラインの健康安全基準を監修

公衆衛生、感染症、バイオセキュリティ、ホスピタリティ、海事オペレーション
トップエキスパートで構成される
専門家委員会「ヘルシー・セール・パネル」を発足

マイアミ-2020年7月6日：クルーズ業界をリードするロイヤル・カリビアン・グループ（ニューヨーク証券取引所コード：RCL）とノルウェー・ジャンクルーズライン・ホールディングス（同：NCLH）は、新型コロナウイルスのパンデミックを受け、強化型クルーズ健康安全基準を共同設定します。

両社はマイク・レヴィット元知事とスコット・ゴットリーブ博士に、新たに発足する専門家委員会「ヘルシー・セール・パネル (Healthy Sail Panel)」の共同座長を委任しました。専門家委員会の任務は、クルーズライン各社がコロナ感染症に対応する公衆衛生上の対策を進め、安全性を高め、安全な運航再開を達成するための勧告を共同で策定することです。

専門家委員会はこれまでおよそ1ヶ月にわたって準備をしており、8月末までに最初の勧告を出す予定です。両社では委員会の取りまとめをオープン・ソースとして業界各社が自由に取り入れられるようにし、委員会の科学的、医学的な知見を有効活用する予定です。

ロイヤル・カリビアン・グループ取締役会会長 CEO、リチャード・D フェイン (Richard D. Fain) は、「前例のない疾病に対処するためには健康と安全に関する前例のない基準が必要です。そのために評価の高い専門家を委員に招き、お客様やクルー、寄港地のコミュニティを守っていくことに責任を持つというわれわれの姿勢を示せるように導いてもらいます」と語ります。

ノルウェー・ジャンクルーズライン・ホールディングス社長兼 CEO フランク・デル・リオ (Frank Del Rio) は、「われわれは普段バカンス客のビジネスを求めて競争していますが、健康と安全の基準について競争することはありません。クルーズ業界ではこれまで常に厳しい健康基準を掲げてきましたが、コロナ感染症でその基準を一段と厳しくしてまいります」と語ります。

CLIA（クルーズライン国際協会）会長兼 CEO ケリー・クレイグヘッド (Kelly Craighead) は、「加盟メンバーの最大手二社が発案し明示したように、健康と安全は加盟各社にとって最優先事項です。米国内外の健康学の権威と医学のエキスパートの知見を取り入れて適正なプロトコルを作成しようという今回の発案や、会社規模の大小によらず加盟各社が並行して進めている不断の取り組みを称賛します」と語ります。

フェインとデル・リオは専門家委員会に対し手始めに、米国疾病予防管理センター (CDC) やその他の規制当局に提出される計画の作成に当たり、入手し得る最上の公衆衛生、科学、技術の知見を反映させてもらいたいと伝えました。委員会による成果は業界と規制当局にも共有されます。

「われわれは専門委員会「ヘルシー・セール・パネル」の招集に当たり、様々な分野をリードする専門家たちの参加を画策しました。科学や公衆衛生の分野は運行停止令を出す際に検討対象とされる諸項目に直結しており重要です。われわれの仕事は公衆衛生上のたいへん重要な取り組みだと考えています。船上のお客様、クルー、寄港地のコミュニティの健康と安全はこの計画の主眼です」とレヴィット元知事は述べています。

「われわれが取り組むことになる公衆衛生の問題は複雑で、地域によっては解決へ向けた取り組みに向け新しいアプローチが必要です。優れた専門家のチームを結成してわれわれが目指したのは、安全性を高めるために最適な手順を開発し、新型コロナウイルスの危険を減らすためのロードマップを作ることでした」とゴットリーブ博士は述べています。

専門家委員会の共同座長は米国保健福祉省長官（HHS）を務めたレヴィット元知事と、米国食品医薬品局局長（FDA）を務めたスコット・ゴットリーブ博士です。様々な分野で世界的に認められた専門家が委員として集いました。公衆衛生、感染症、バイオセキュリティ、ホスピタリティ、海事オペレーションのエキスパートです。

専門委員紹介：

マイク・レヴィット元知事 Governor Mike Leavitt

ジョージ・W・ブッシュ大統領の下でユタ州知事を3期、米国環境保護庁(EPA)長官と米国保健福祉省(HHS)長官を歴任。レヴィット・パートナーズを設立。同社は投資サポート、データ、分析を提供する会員型の提携団体で、バリューエコノミーで顧客の意思決定戦略を直接サポートする。

スコット・ゴットリーブ博士 Dr. Scott Gottlieb

2017年～2019年米国食品医薬品局（FDA）局長。2005～2007年同局医科学部門担当副局長。内科医で現在はアメリカン・エンタープライズ公共政策研究所レジデントフェロー。

ヘレン・ゲイル 医師、公衆衛生学修士 Helene Gayle MD, MPH

アメリカを代表するコミュニティ財団シカゴコミュニティトラストのCEO。以前は約10年間、国際ケア機構の社長兼CEOを務めた。国際開発、人道主義、健康問題の専門家として20年間 米国疾病予防管理センター（CDC）で主にHIV/エイズ問題に取り組んだ。ビル&メリンダ・ゲイツ財団ではHIV/エイズ問題とその他の世界の健康問題を扱った。また非営利団体で社会的影響力を形成するパートナーシップ、マッキンゼー・ソーシャル・イニシアチブ（現McKinsey.org）も立ち上げた。ザ コカ・コーラ カンパニー、コルゲート・パーモリーブ、ブルッキングス研究所、戦略国際問題研究所（CSIS）、ニュー・アメリカ、ワン・キャンペーン、シカゴ連邦準備銀行、シカゴ経済クラブなど上場企業や非営利団体でも勤務した。外交問題評議会評議員、アメリカ公衆衛生学会、全米医学アカデミー、NMA アメリカ医学会、米小児科学会の会員。

ジュリー・ガーバーディング 医師、公衆衛生学修士 Julie Gerberding, MD, MPH

メルク社部長兼最高患者責任者として戦略的コミュニケーション、世界の公共政策、公衆衛生と患者エンゲージメントを統括する。かつて米国疾病予防管理センター（CDC）の代表を務め、世界的に知られた公衆衛生学の専門家で、世界の持続的な健康の実現に深くかかわり、現代社会においてたいへん困難な健康の諸問題に取り組んでいる。その中には重要な治療の経済的実現、新薬やワクチンの開発と維持のための健康政策の提唱、メルク社が主導する官民共同の連携で国連のSDGs 戦略に沿った母親プログラムを通じて母親の死亡率を抑える計画などが含まれる。

メルク社にかかわる以前の2002年～2009年には、女性初のCDCの代表を務めた。在任中は炭疽菌、SARS、鳥インフルエンザ、食品由来の感染症発症や自然災害など40を越す危急の問題への対処にリーダーシップを発揮した。さらに以前にはカリフォルニア大学サンフランシスコ校の感染症に関する終身教員となっている。同校医学部の臨床医学准教授を続けている。

スティーブン・ヒンリッヒス 医師 Steven Hinrichs, MD

オマハのネブラスカ大学医療センター病理学及び微生物学教授で学科長。ネブラスカ大学公衆衛生ラボラトリー（NPHL）代表。ネブラスカ大学バイオセキュリティセンター所長。ラボラトリーの代表として、大量死をもたらす生物学的薬剤の急速同定プログラムの州の開発責任者を担ってきた。生物学的兵器の早期発見のための拡張レーニングと専門家養成のアウトリーチプログラムの開発で公衆衛生試験所・ラボ協会（APHL）、米国疾病予防管理センター（CDC）、米国国防総省から主要研究者として国家表彰多数。ノースダコタ大学で医師として解剖及び臨床病理学の委員会認定を受けている。自身の研究ラボでは分子病理学とがんにおけるウイルスの役割に着目している。基礎科学分野で130を越す論文と医学ジャーナルを発表している。

マイケル・オスターホルム 医師、博士 Michael Osterholm, MD, PhD

公衆衛生、感染症、バイオセキュリティに関するアメリカでも指折りの権威。ミネソタ大学の感染症研究政策センター代表として、世界的なパンデミックの流行に備える国際的主導者である。食物由来感染症、医療施設内でのB型肝炎、医療従事者のHIV感染など国際的に重要な感染拡大の調査を多数率いてきた。世界保健機関、米国衛生研究所、米国食品医薬品局(FDA)、米国国防総省、米国疾病予防管理センター(CDC)の顧問を頻繁に努めている。2001年から2005年まで米国保健福祉省(HHS)長官付特別顧問としてバイオテロや公衆衛生の有事に対する備えについて助言を行った。2018年6月から2019年5月までアメリカ国務局の医療安全保障に関する科学公使。バイオセキュリティに関する米国立科学諮問委員会委員、世界経済フォーラムのパンデミック作業部会委員など多くの際立った舞台でコンサルタントを務めた。

スティーブン・オストロフ 医師 Stephen Ostroff, MD

公衆衛生分野での経験が豊富で、米国食品医薬品局(FDA)、米国疾病予防管理センター(CDC)で要職を務めた。FDAのチーフサイエンティストを経て2015年から2016年までFDA臨時局長。2013年に食品安全応用栄養センター主任医局員、食品及び獣医学部局公衆衛生上席顧問としてFDAに入局。以前は米国疾病予防管理センター(CDC)の副所長。CDC生物学セレクトエージェントプログラムの臨時部長。CDC在職時は新興感染症、食品の安全性、複雑な発症の対応などに当たった。米国公衆衛生局の委託団体では海軍少将(軍医副総監)まで務めた。疫学局局長、ペンシルベニア州臨時医師会会長を歴任。南アフリカとラテンアメリカにおける公衆衛生国際プロジェクトのアドバイザーを務めた。1981年ペンシルベニア大学医学大学院卒業。コロラド大学健康科学センターおよびCDCの予防医学科で研修医を務めた。

ウィリアム・ルタラ博士、医師 William Rutala, PhD, MS, MPH

様々な疾病に取り組んできた経験を持つ。伝染病学とウイルス学の研究への広範囲にわたる経験を持ち、特に感染発症と新興病原菌の管理に取り組んできている。研究テーマは病因学と医療行為に関連する感染症予防で、とりわけ再使用できる医療外科機器(内視鏡や手術用具など)の消毒殺菌に着目している。他の分野で積極的に研究しているのは疾病の伝播に医療環境や手指の衛生がどのような影響をもたらすかや、複数の薬剤耐性を持つ組織を含む感染物質の伝達防止、医療行為に起因するクロイツフェルト・ヤコブ病の防止、医療行為に関連する感染拡大の調査、医療行為における新興病原菌についてなどである。

ケイト・ウォルシュ博士 Kate Walsh, PhD

コーネル大学ホテル経営学部学部長でE.M.スタットラーの教授。専門は経営学。世界的なホスピタリティ産業教育のリーダーで、サービスデザインの組織化やリーダーシップとキャリア開発、戦略的人材投資の重要性について、定評のあるエキスパートである。著作や監修も多数あり、調査研究発表を重ねている。現職である学部長など20年以上にわたる学術的な経験を持つ。

サービス業界での知見も豊富で、ニッコーホテルズ・インターナショナルでは人材育成と開発責任者、かつてのプリストル・ホテルズで企業研修マネージャー、ロウズ・コーポレーションでは監査役を歴任した。ニューヨーク州公認会計士でもある。

学部長に就任以来、未来の教育に向けたスクールの位置づけに着目している。学士および修士プログラムの分かり易い改変に取り組み、オンライン上でスクールの世界的なプレゼンスを広げている。修士プログラムの開発に取り組む国際共同パートナーの発掘、ホスピタリティ産業に向けて錬成したリーダーシップを提供する。特筆すべきは学部への産業調査提携の創出、スクールの6つのセンターや研究所を通じたイニシアチブの保護育成、産業の牽引する学部出身者を送り出すことである。ボストンカレッジのキャロル経営学大学院で博士号を取得。コーネル大学ホテル経営大学院で専門学修士号を得ている。

パトリック・ダールグレン船長 Captain Patrik Dahlgren

ロイヤル・カリビアン・グループのグローバルブランドにおけるグローバル海事オペレーションとフリートオプティマイゼーション本部長。タグボート、ヨット、貨物船やフェリーのブリッジオフィサーとしてキャリアをスタート。ロイヤル・カリビアン・インターナショナルでは15年以上経験を積み、これまでオアシス・オブ・ザ・シーズ、クアンタム・オブ・ザ・シーズの船長を務めている。クアンタム・オブ・ザ・シーズの開発を先導した貢献に対し、王立海軍建築家協会(RINA)より表彰を受けている。技術開発と洋上の安全対策への貢献が評価された。

ロビン・リンゼイ Robin Lindsay

ノルウェー・ジャンクルーズライン・ホールディングスのシippオペレーション部長を2015年1月から務めている。ノルウェー・ジャンクルーズライン、オーシャニア クルーズ、リージェント セブンシーズ クルーズの3ブランドすべての海事技術オペレーション、ホテルオペレーション、エンターテインメント、商品開発、ポート&ディスティネーションサービス、フリート人事、アウトアイランズ、新造船およびリノベーションの責任者である。前職はオーシャニア クルーズ、リージェント セブンシーズ クルーズの親会社にあたるプレステージ・クルーズ・ホールディングスで同様の職責を果たしていた。会社との関わりは2003年のオーシャニア クルーズの発足にさかのぼる。本部長としてホテルオペレーションとシippオペレーションを担当した。ルイジアナ工科大学で理学士号を取得している。

そのほかにも数名のエキスパートがアドバイザーとして専門家委員会に参画します。伝染病学者でジョンズ・ホプキンス・ブルームバーグ大学公衆衛生学部で指導に当たるケイトリン・リバーズ博士は、感染症の伝染拡大科学分野の専門家です。エモリー大学医学部で感染症学の名誉教授フィリス・コザルスキー博士は旅行前の健康アドバイスと教育、地球規模の健康学、旅行由来の感染症と伝染病学の専門家です。旅行者の健康における国際移動と検疫についてCDC 米国疾病予防管理センターの特別顧問を務めています。

ロイヤル・カリビアン・インターナショナルについて

ロイヤル・カリビアン・インターナショナルは数々の賞に輝く国際クルーズブランドで、50年間に渡り革新を重ね、洋上では見られなかった業界初の試みをつねに導入し続けています。船上ではブロードウェイスタイルのエンターテインメントや斬新な施設を備え、ご家族連れをはじめ冒険心旺盛なお客様にお楽しみいただける多種多様なプログラムをご提供します。当社は世界で最も革新的なクルーズ船 26 隻を運航しており、バミューダ、カリブ海、ヨーロッパ、カナダ、米国、アラスカ、ニューイングランド、南アメリカ、アジア、オーストラリア、ニュージーランドといった全世界の人気のディスティネーションへお客様をご案内いたします。また「ゴールド・アンカー・サービス」というサービス基準を設け、全スタッフが最高のおもてなしでお出迎えいたします。ロイヤル・カリビアン・インターナショナルは Travel Weekly Readers Choice Awards で 17 年連続「Best Cruise Line Overall (クルーズ・ライン総合第1位)」に選ばれています。

セレブリティクルーズについて

セレブリティクルーズは 13 隻の客船を保有する国際クルーズブランドで、クルーズ運行会社ロイヤル・カリビアン・クルーズリミテッド(RCL)の持つ6つのクルーズブランドの内の1つです。セレブリティクルーズは TRAVEL WEEKLY READERS CHOICE AWARDS で 11 年連続「ベスト・プレミアムクルーズライン」を受賞するなど、世界中から高い評価を得ています。また日本においても高い評価を得ており、2017 年にはクルーズ・オブ・ザ・イヤー2017においてセレブリティ・ミレニアムがグランプリを受賞しました。セレブリティクルーズを象徴する「X」マークは、同社の掲げるメインコンセプト「モダンラグジュアリー」を意味します。私達の考える「モダン」とは、伝統や歴史といったしきたりから解き放つ、自由でグローバル、都会的で洗練された空間を意味します。また「ラグジュアリー」とは上質でスタイリッシュな落ち着いた空間とそこで寛ぐ時間の贅沢を意味します。私達は「モダンラグジュアリー」、すなわち「都会的で洗練された空間の中にある、上質な時間の贅沢」を日々追求しております。

メディアコンタクト:

Royal Caribbean Group ロイヤル・カリビアン・グループ

Rob Zeiger ロブ・ザイガー

corporatecommunications@rccl.com

Healthy Sail Panel 専門家委員会〈ヘルシー・セール・パネル〉

Sara Singleton サラ・シングルトン

Sara.Singleton@LeavittPartners.com